足の確保で元気なまちに

緑区の交通課題

緑区の交通問題といえば、大網街道の渋滞とJRの混雑、そして区域が広いのに街中の移動手段（バスなど）が乏しいための自動車依存です。大網街道の渋滞解消に向けては、都市計画道路の整備や外房有料道路の無料化で対応しようというのが千葉市のビジョンですが、**JRの混雑に関しては市の関与は極めて希薄**で、年に一度、要望を出す程度です。ダイヤの改正なども行なわれていますが、それ以上に人口増が著しく、焼け石に水というところです。さらに、**駅周辺の放置自転車**や駐輪場整備を含めた自転車利用も今後の課題です。

千葉市バス　どのように走らせる？

市民ネットワークでは、これから高齢化社会を迎えるにあたり、公共交通の整備が重要！と、交通政策に関するワークショップを開催して考えてまいりました。

緑区では、越智、大椎町、大木戸町、椎名地区などの交通が不便な地域から駅へと向かうバスのルート見直しや、おゆみ野内を巡る生活バスの整備などが必要です。

ところが、**千葉市には交通局が無く、バスの整備は事業者任せ**です。市は、市民と事業者とのコーディネート役をもっと積極的に担うなど、バス事業に関しては、さらに踏み込んだ関わりが必要です。

自転車利用総合計画の策定

現在千葉市は、放置自転車対策に頭を悩ませ、自転車利用総合計画を策定中です。

駐輪場の整備については、「自転車法」により事業者は積極的に協力することとされているため、鉄道用地の無償貸付などについて協力するよう鉄道事業者と協議し、大型店舗などの新築や増築に際しては駐輪場の設置を指導し、既存の駐輪場の少ない大型店舗などについても、増設などができないか協議していくとのことです。

また、放置自転車対策は、行政単独で解消を図ることは困難なことから、鉄道事業者や店舗、学校などとの協力体制の充実を図り、レンタサイクルなどを、総合計画の中で検討したいと考えているそうです。

積極的に市民の意見を

土気駅ロータリー周辺に放置された自転車

自転車利用総合計画とともに総合交通ビジョンも策定中です。

今後は、パブリックコメントなどで市民意見に耳を傾けていくことになっていますので、素案ができましたら積極的に意見を市に届けましょう。

介護保険 こんなときどうしたら！

シリーズ ネットの介護医療コーナー

田宮　妙子

元気に家族とともに自宅で暮らしていたおじいちゃま、徐々に足腰が弱くなり気がついたらベッド上で生活することが多くなってきました。毎日自力で入っていた大好きなお風呂に入れなくなりました。

そこで家族の出番と、入浴介助をしばらく試みました。が、洗い場は二人でいっぱい。浴槽は深くて入れられませんし、入れたら入れたで重くて引っ張りだせません。

そのうち、介護する家族の腰痛が、と悩んだ経験はありませんか？

こんなとき介護保険では

＊通所介護（デイサービス）を利用して施設で入浴ができます。あわせて寝たきり予防のための機能訓練なども可能です。

＊訪問介護（ホームヘルプ）を利用して自宅で入浴介護などの身体介護を受けることができます。

＊入浴時のシャワー椅子などの福祉用具を購入することもできます。
（この場合購入後に９割分の代金が戻ってきます。）

では実際に介護サービスを利用するにはどうしたらよいのでしょう？

申請をします

お住まいの区の介護保険課に申請書（介護保険課にあります。）と、介護保険被保険者証を持っていき手続きをします。

要介護認定を受けます

＊訪問調査

→調査員が自宅にきて心身の状況などを調査します。

＊主治医の意見書

→申請の際、申し出のあった医療機関に意見書の提出を依頼します。（前もって主治医に相談していると状況がわかり書きやすいこともあります。）

＊介護認定審査会
第２次判定

→第１次判定結果（コンピューター）と、調査員の特記記事および主治医の意見書をもとに審査および判定をします。

原則申請から30日以内に認定結果が通知されます。

……参考……

認定結果によって受けられるサービスがほぼ決まってきますが、個々の状況を把握しよりよいサービスの利用方法（ケアプラン）を検討しなければなりません。

これを担当するのが、ケアマネジャー（介護支援専門員）です。

認定結果	内　容	ケアプラン担当者
要支援1・2	日常生活において、ほぼ自分で行うことが可能な方、	あんしんケアセンターに依頼
要介護1～5	部分的な日常生活の介護から、介護なしでは日常生活を営むことができない方までの段階的な状態区分	各居宅介護支援事業所のケアマネジャーが担当
非介護（自立）	介護保険では自立と認定されましたが、介護予防事業の対象になる可能性もあります。	

わくわくキャンパスに参加して

敬三さんのつれづれ日記

私の住んでいる地区の自治会長さんから、○○小学校地域子ども教室実行委員会会長と校長先生の連名で、放課後の子供たちの居場所作りを進めていくにあたり地域からも参加しませんかという趣旨のご案内を頂きました。簡単な説明で実態も良く飲み込めぬまま、わざわざお持ち頂いた会長さんの顔を立てなければならない年頃になったのかと自覚し参加することにしました。

少しアンテナを高くして見たところ、保護者会の皆さんには十六頁の説明書で学校から説明されているのに、地域からの参加者に対しては、この程度のものかと力が抜けてしまったり、元々このプロジェクトは前文科大臣の置き土産として進行中の国家事業で、学校もその他の関係者も斜に構えているというような影の声が聞こえてきたり…。

キャンパス開始前の説明会では教頭先生が、学校側は場所を提供するだけで、この事業には関係ありませんよ、責任ありませんよと強調される声に虚しさを感じましたし、地域からの参加は私も含めてたった三名でしたが、その中の一人が準備不足を批判してそれっきり来なくなったり…等で、お役所主導なのに、お母さんと地元主導風に仕立てようとする難しさや矛盾を、初めから感じました。

まだ始まって一ヵ月半、お母さん達が模索しながらやっている訳で、私自身も、ただ囲碁や将棋の相手をしているだけでよいのか、まだ自分の居場所がわかっていません。

昨年のキャンパスが休みに入ってから、あるお母さんから何か良いアイディアがありませんか？と囁かれました。ようやく仲間入りできるのか！幾つかやってみたい事（多分子供たちも気に入ってくれそうな事）が浮かんでいるんですよ!!

最近マスメディアでは団塊世代を社会問題として盛んに取り上げ、政治家や学識経験者が持論を展開しています。彼らに言わせると団塊ジュニア世代は団塊世代の子育て失敗の産物だそうですが、今キャンパスで活躍中のお母さんたちの多くは団塊ジュニアなんですよね。なかなか頑張っていると思います。彼女たちと共にお役所が作った仏にこれから何とか魂を入れたいものと思っています。